

令和8年（2026年）度事業評価シート

令和 8 年 6 月 30 日

評価対象事業	文観 - 3	文化行政推進事業	☐ 法定受託事務
所管課	文化観光部 文化課		評価者 文化課長 鋤柄 雅之
一般	会計	款 10	項 5
目 50			
総合計画上の位置付け	分野名	文化	施策の方針名 文化活動の支援・促進

1 事業の目的

対象	市民等	意図	鎌倉の文化の質的向上と豊かな市民生活の創造を図るため。
効果	市民をはじめとする多くの人々が集い、事業を通じ文化活動の活性化を図る。		

2 事業工程と運営資源配分

☐ 単年度事業 ☐ 終期のある事業 （事業終了予定年度： 年度） ☒ 単年度繰返

	令和7年度	令和8年度	令和9年度（未定）
事業工程	・鎌倉市民文化祭企画運営委員会運営 ・伝統文化伝承事業及び鎌倉こども能の業務委託 ・文化団体等へ補助金及び助成金の交付 等	・鎌倉市民文化祭企画運営委員会運営 ・伝統文化伝承事業及び鎌倉こども能の業務委託 ・文化団体等へ補助金及び助成金の交付 等	・鎌倉市民文化祭企画運営委員会運営 ・伝統文化伝承事業及び鎌倉こども能の業務委託 ・文化団体等へ補助金及び助成金の交付 等
予算額（千円）	27,990	28,347	
国県支出金			
地方債			
その他	201	201	
一般財源	27,789	28,146	0
当初人員配置数	3.3	3.5	0.0
人件費（千円）	21,016	23,551	0
事業実績	・鎌倉市民文化祭企画運営委員会運営 ・伝統文化伝承事業及び鎌倉こども能の業務委託 ・文化団体等へ補助金及び助成金の交付 等		
決算額（千円）	22,133		
国県支出金			
地方債			
その他	251		
一般財源	21,882	0	0
人員配置実績数	3.0	0.0	0.0
人件費（千円）	17,947	0	0

3 活動結果（アウトプット）指標

No	活動結果（アウトプット）指標		単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9
						（上段実績、下段経費（千円））		
活1	指標名	鎌倉市民文化祭の来場者数	人	7,641	↗	8,980		
	実績につながる活動	舞台行事及び展示部門で構成された鎌倉市民文化祭を実施する。				5,500		
活2	指標名	伝統文化伝承事業の参加者数	人	511	↗	596		
	実績につながる活動	伝統文化伝承事業を実施する。				7,000		
活3	指標名	鎌倉こども能応募者数	人	20	⇒	25		
	実績につながる活動	鎌倉こども能を実施する。						

活動結果指標の実績に影響を与えた外部要因	・活動結果指標（アウトプット）の実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う活動結果指標の達成状況に対する評価	・鎌倉市民文化祭鎌倉市展のうち、書道展では子どもたちの作品を展示し、写真展では市内の高校等の写真部の作品を展示する取組を実施した結果、来場者数が増加した。また、伝統文化伝承事業では、東アジア文化都市事業と連携し、韓国や中国の文化に触れる機会を設けるなど、多種多様な文化事業を実施したことにより、参加者数が増加した。

4 成果（活動による直接アウトカム）指標

No	成果（アウトカム）指標の内容	単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9	関連する活動結果指標No （最大3つ）
成1	「文化活動が活発だと思っている市民の割合（市民意識調査）」	%	73.5	⇒	72.1			1 2 3

成果指標の実績に影響を与えた外部要因	・成果指標（アウトカム）の実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う成果指標の達成状況に対する評価	・市民意識調査における「文化活動が活発であり、新たな文化の創造・発信を行っているまち」であると感じる市民の割合が前年度とほぼ同様であった。
活動結果指標と成果指標結果の比較分析（寄与度）	・子どもや市内高等学校等の学生作品を展示するなどの取組を実施したことにより、文化事業への参加人数は増加しており、市民意識調査の結果も前年度と概ね同様であることから、一定の水準を維持している。

5 評価結果

評価	妥当性	事業に対するニーズ	☐ 増えている	☒ 変わらない	☐ 減少している
		事業実施の主体となるべき者	☒ 市	☐ 国・県	☐ 民間事業者 ☐ なし
	有効性	事業の成果	☐ 十分に出ている	☒ 概ね出ている	☐ 出していない
	効率性	事業費削減余地	☐ ある	☒ なし	
	公平性	関連・類似事業との統合	☐ できる	☒ できない	
方向性		受益者負担	☒ 導入済	☐ 導入予定	☐ 導入できない
		評価実施年度の方角性	⇒ 評価実施翌年度以降の方角性		
	事業内容の方角性	☒ 事業内容は現状通り ☐ 事業内容は見直し済 ☐ 事業を休止又は廃止済 ☐ 他事業と統合済	⇒	☒ ① 事業内容は現状通りとする ☐ ② 事業内容は見直す ☐ ③ 事業は休止又は廃止する ☐ ④ 他事業と統合し、本事業は廃止する	→ ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他 事業へ統合
	予算規模の方角性	☒ 予算規模は現状維持 ☐ 予算規模は拡大済 ☐ 予算規模を縮小済	⇒	☒ ⑤ 予算規模は現状維持とする ☐ ⑥ 予算規模は拡大する ☐ ⑦ 予算規模は縮小する	

今後の取組方針（見直し方針）	課題への対応		結果	具体的な内容	
	前年度の新たな課題への対応結果		前年度は新たな課題なし		
	活動結果指標や成果指標の達成状況に影響を与える新たな課題		新たに認識された課題はなかった		
	新たな課題に対応するための新規事業の必要性		新たに認識された課題はなかったため検討なし		
	総評	参加者数は増加しているものの、参加団体等の固定化が見受けられるため、新たな分野の文化活動を取り入れる必要がある。引き続き、市民ニーズを把握しながら、幅広い世代の参加が得られるような企画や費用対効果を考慮しながら、事業等を検討する。			上位施策への寄与度
					A

○ 他市比較・ベンチマーク（県内外自治体や民間団体との比較値）

比較事項									
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績									

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	文化行政事業は、成果が多面的かつ定量化しにくく、地域特性の影響も大きいため、単純な他事業との比較やベンチマークによる評価は馴染まないため設定しない。
----------------------	--